

宍道湖流入・流出水調査月報

(平成13年2月期)

水質概要

2月の水温は、表1に示すとおり平年値(上層4.9、中層4.9、下層4.9)に比べてほぼ平年並の変動であった。図1に示すように、2月の水温変動は4~9で変動しており、下旬に向かうにつれ徐々に水温上昇が見られた。15psu以上の高塩分水の流入時に2~3以上の水温上昇が見られた。また、水深による顕著な差異は見られなかった。

2月の塩分は、表1に示すとおり平年値(上層4.8psu、中層5.4psu、下層6.3psu)に比べて、上層、中層、下層ともに若干高い値を示していたが、ほぼ平年並の変動が見られた。また、2月においては15psu以上の高塩分水の流入は8日観測された。2月は、気圧低下と高塩分水の流入に顕著な関係が見られた(図2参照)。とくに、顕著な変動は2月1日、7日、16日、19日、21日および24日に見られた。気圧低下後数時間後に高塩分水の遡上が見られた。

2月の溶存酸素濃度は、表1に示すとおり上層・中層・下層ともに10.5~12.1mg/lと高い溶存酸素濃度の変動が見られた。(平均値:上層11.4、中層:10.6、下層:11.2mg/l)。顕著な貧酸素水の流入は見られなかった。図1に示すように、15psu以上の高塩分水の流入時に溶存酸素濃度の低下が見られたが、顕著な低下ではなかった。

表1 2月期の水質概要

		水温	塩分	溶存酸素濃度
		()	(PSU)	(mg/l)
上旬	上層	5	5.9	12.1
	中層	5.1	6.5	10.6
	下層	5	6.3	11.8
中旬	上層	5.3	6.9	11.3
	中層	5.5	7.8	10.5
	下層	5.5	7.3	10.9
下旬	上層	6.9	5.1	10.8
	中層	7	5.9	10.8
	下層	7	6	11
月間平均 (2月)	上層	5.6	6	11.4
	中層	5.8	6.8	10.6
	下層	5.7	6.6	11.2

(水温・塩分平均値は、島根大学 宍道湖・中海水質月報、1994年4月より引用)

(表の中の数字は、平均値を示す)

水質

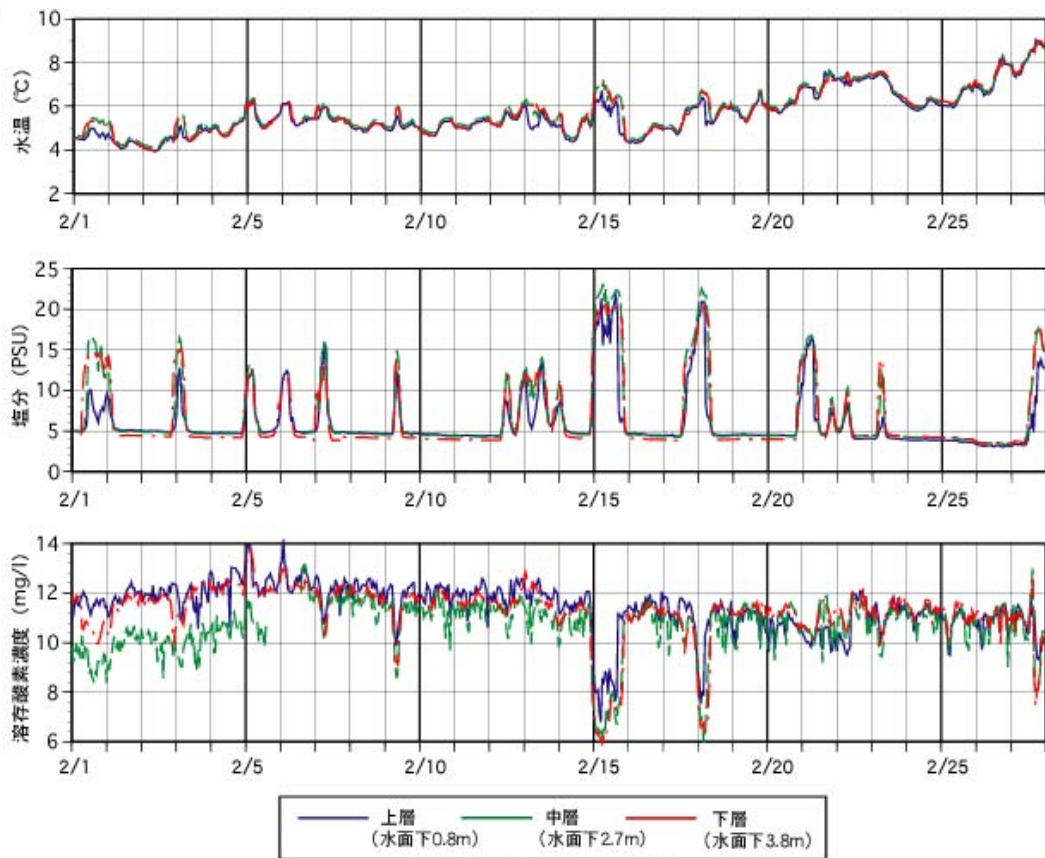


図1 水温・塩分・溶存酸素濃度の時系列変化

気象概況

2月は、表2に示すとおり、平均気温5.0（平年値4.0）であり、平年並の変動であった。図2に示すように、2月の顕著な気圧変動は、2月1日、7日、16日、19日、21日および24日に急激な低下が見られたものの全体として1000hPa以上の変動であった。平均気圧1014.8hPaは、平年値（平年値1019.8hPa）と比較して若干低かった。表2に示すとおり、2月の日射量は、0.044MJ/m²であり、1月と比較して高い値を示していた（1月平均値：0.0285MJ/m²）。2月の風向・風速は、平均風速3.0m/sec（平年値3.9m/sec、西風）であり、平年並であった。

表 2 2 月期の気象概要

	気温 ()	気圧 (hPa)	風速 (m/sec)	風向	日射量 (MJ/m ²)
上旬	4.8	1014.6	3.2	南南西	0.036
中旬	3.9	1016.4	3.1	南南西	0.049
下旬	6.4	1013	2.7	南	0.049
月間平均	5	1014.8	3	南南西	0.044

(平年値は、平成 13 年気象の暦 (山陰版) (財) 日本気象協会中国センターより引用)
 (表中の数字は、平均値を示す)

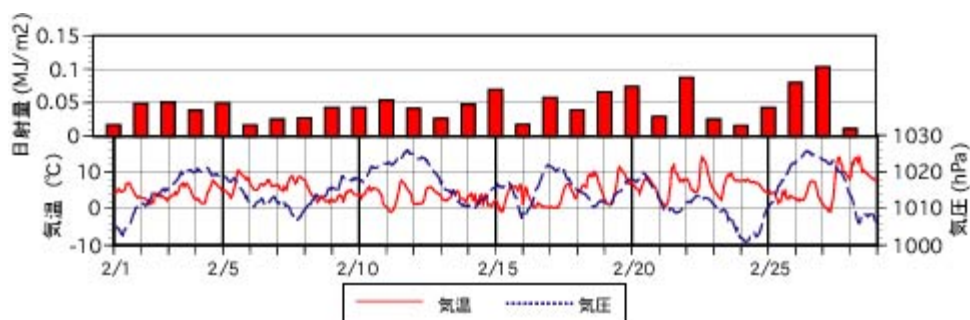


図 2 気温・気圧・日射量の時系列変化

流況

2 月の平均流速は、上層 18.5cm/sec、中層 17.3cm/sec、下層 17.0cm/sec であった。2 月の東方流速は、全体的に宍道湖から中海に向かう流れが卓越していた。

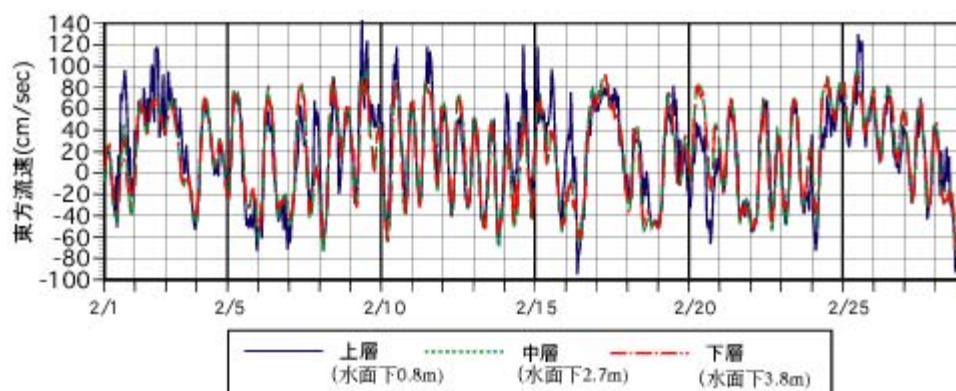


図 3 東方流速の時系列変化